

## V07a MOA 新 1.8m 望遠鏡の調整および観測

神谷 浩紀 (名大STE)、阿部 文雄 (名大STE)、伊藤 好孝 (名大STE)、大西 浩次 (長野高専)、岡田 千丈 (名大STE)、齋藤 敏治 (都立航空高専)、さこ 隆志 (名大STE)、佐々木 允洋 (名大STE)、佐藤 修二 (名大理)、中村 俊作 (名大STE)、中村 卓史 (京大理)、増田 公明 (名大STE)、松原 豊 (名大STE)、村木 綏 (名大STE)、本村 真敏 (名大STE)、吉岡 努 (名大STE)、I. Bond(マッシー大)、J. Hearnshaw(カンタベリー大)、P. Kilmartin(カンタベリー大)、D. Sullivan(ヴィクトリア大)、P. Tristram(オークランド大)、P. Yock(オークランド大)

我々MOAグループは2004年10月ニュージーランドのマウントジョン天文台に口径1.8mの重力マイクロレンズ現象観測専用の新望遠鏡を建設し、2005年3月に新望遠鏡専用大面積CCDカメラでのファーストライトを迎えた。その後レンズの調整を終え、現在は定常観測が続けられている。

本望遠鏡は視野角が約2平方度と広視野であり、視野の端での収差を抑えるためレンズ4枚を有した光学系になっている。この4枚のレンズを正しくアラインメントしなければ、視野の端での収差を抑えることができない。今回の調整ではレンズのアラインメントを行い、視野の端での収差を抑えることができた。

本年会では、レンズのアラインメントの方法について述べ、定常観測で得られたデータを紹介する予定である。